

令和4年度聴覚障害児支援中核機能モデル事業 事業報告

鳥取県

(1) 地域の現状と課題

鳥取県では、平成16年度より新生児聴覚検査体制整備事業を開始し、県下への新生児聴覚検査の普及と、関係機関の連携による早期支援に向けた体制整備を行ってきた。このことにより、全国的にも早く、県内全ての産科医療機関における新生児聴覚検査の体制が整い、現在も高い受診率を保持している。

新生児聴覚検査による聴覚障がい早期発見と早期療育・教育に繋げるための連携体制については定着しつつあるが、聾学校に繋がっていない軽度難聴や、後天性の難聴の子どもの状況把握等が十分にできておらず、地域に埋もれている難聴児への支援に課題がある。

また、保健・医療・福祉・教育の各分野を超えた連携体制について、部分的なつながりはあるが、支援者が他分野の支援について知らないことも多く、保護者からは「どこに相談したら良いかわからない」という声がある等、保護者が求める支援内容に対し、適切な情報提供、支援へ繋がっていない可能性がある。必要なタイミングで適切な情報提供、支援がなされる仕組みづくりや、分野を超えた一体的な支援体制の整備についても課題がある。

(2) 鳥取県におけるこれまでの聴覚障害児支援に係る活動・取組

年度	活動・取組
平成16年～	新生児聴覚検査体制整備事業を開始。 新生児聴覚検査から、難聴児の早期発見と早期療育へ繋げるための県内におけるシステム作りを行うため、新生児聴覚障がい支援検討会を設置。 <検討会委員> 産婦人科医、小児科医、耳鼻咽喉科医、産婦人科看護師、療育機関、鳥取聾学校、県教育委員会特別支援教育課、県福祉保健部担当課
平成18年～	「新生児聴覚検査と聴覚障がい児支援のための手引き」の初版が完成。 (その後、必要に応じて随時改訂)
平成23年～	身体障害者手帳交付対象外となる、軽度・中等度難聴児に対する補聴器購入等の助成事業開始。
平成25年～	全国で初めて『鳥取県手話言語条例』を制定。 手話の普及や、手話を使いやすい環境整備のための事業を展開し、きこえない・きこえにくい人の社会参加を推進。
令和3年	きこえない・きこえにくい子どもの支援検討会を開催 本県における難聴児支援の中核的機能を有する支援体制のあり方について協議を実施。

令和4年～	鳥取県きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』を開設。
-------	-------------------------------------

(3) 本事業における取組

支援の中核的機能を有する拠点として、きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』を設置し、特別支援学校のセンター的機能を持つ鳥取聾学校と連携して事業を行った。

①協議会の設置について

ア 協議会の構成員

分野	所属	役職
医療	鳥取県耳鼻咽喉科医会	会長
	鳥取大学医学部附属病院耳鼻咽喉科	医師
	鳥取県産婦人科医会	会長
	鎌沢マタニティークリニック	医師
	鳥取県小児科医会	会長
	鳥取県立中央病院小児科	医師
	鳥取県立厚生病院小児科	医師
	鳥取大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター	医師
	鳥取県言語聴覚士協会	副会長
保健	鳥取市保健所	保健師
	鳥取県子育て・人財局家庭支援課	参事、保健師
療育	鳥取療育園	言語聴覚主任
福祉	聴覚障がい者センター	センター長
	鳥取県福祉保健部子ども発達支援課	課長、課長補佐、保健師
教育	鳥取聾学校	校長
	鳥取県教育委員会事務局特別支援教育課	課長、指導主事
当事者、関係団体	鳥取県聴覚障害者協会（きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター）	所長、相談員兼コーディネーター、支援員、事務員
	鳥取聾学校 PTA	保護者

イ 協議会の開催回数、開催日、議題及び出席状況

○開催回数 2回

○協議会の開催状況

	開催日	議題	出席状況
第1回	令和4年9月8日	・中核機能の役割について ・幼稚園・保育所・学校におけるきこえない・きこえにくい子どもの状況調査について ・新生児聴覚検査の流れについて	28名
第2回	令和5年2月8日	・令和4年度事業報告並びに令和5年度の事業計画について ・新生児聴覚検査の実施状況調査について ・新生児聴覚検査の公費負担について ・新生児聴覚検査と聴覚障がい児支援のための手引きについて ・幼稚園・保育所・学校におけるきこえない・きこえにくい子どもの状況調査について	26名

ウ コーディネーターの職種及び経験年数

職種：元（鳥取聾学校）教員

経験年数：35年

エ コーディネーターの主な役割

- ・相談支援
- ・各関係機関との「繋ぎ」等

② 関係機関との連携

ア 現状

- ・「新生児聴覚検査と聴覚障がい児支援のための手引き～関係機関の連携による早期支援に向けて～」を作成しており、新生児聴覚検査において難聴の診断がついた児を早期療育へ繋げるための連携の流れ（精密検査医療機関→鳥取聾学校）は定着しつつある。
- ・新生児聴覚検査から鳥取聾学校へ繋がった難聴児の状況把握は概ね実施できており、鳥取聾学校を中心としたフォローがなされているが、成長過程で顕在化してきた難聴や、何らかの原因による後天性の難聴等、鳥取聾学校へ繋がっていないケースについては、十分に状況把握ができていない。
- ・精密検査医療機関と鳥取聾学校、市町村と鳥取聾学校等、部分的な繋がりはあるが、

保健・医療・教育・福祉の各分野の関係者の顔が見える関係作りに課題がある。

イ 実施内容及び手法

- ・県内の実情把握を行うため、県内の保育園、幼稚園、認定こども園、地域型保育事業所、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校（計450か所）へ、「きこえない・きこえにくい子どもの状況調査」（アンケート調査）を実施した。
（調査項目：きこえない・きこえにくいこどもの在籍状況、保護者が利用している相談機関、在籍園・在籍校として相談している機関、在籍園・在籍校の支援機関への相談の意向 等）
- ・きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』における相談等から、関係機関へケースや課題の情報共有を実施した。また、情報交換のための連絡会や訪問を実施した。（連携機関と回数：鳥取聾学校…16回、療育機関…3回、医療機関…10回、市町村…3回、その他機関…12回）

ウ 結果

- ・「きこえない・きこえにくい子どもの状況調査」のアンケート回収率は63.8%であり、やや低かったが、年齢が上がるにつれ、きこえない・きこえにくい子どもの割合が高くなる傾向がみられ、特に一側性難聴児が地域の学校に多く存在していることが明らかになった。また、相談機関としては年代問わず医療機関が多く、高校生は3割弱しか相談機関とは繋がっていなかった。また、在籍園、在籍校として、きこえない・きこえにくい子どもの支援について相談したいと考えているところはわずかであった。
- ・きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』を拠点に、関係機関との繋がりを作ることができた。

③ 家族支援の実施

ア 現状

- ・難聴児と保護者への支援については、鳥取聾学校が乳幼児教育相談を実施している。
- ・保護者の中には、「どこに相談したら良いかわからない」という声があったり、子どものきこえを心配していても、聾学校に相談へ出向くことに対しての敷居の高さ等を理由として、相談に出向かれることを躊躇われるケースもあり、情報を把握した市町村保健師等が継続的にアプローチを行っている。
- ・新生児聴覚検査でリファアになってから確定診断がつくまでの間の保護者のフォローが十分にできておらず、保護者の中には、不安を抱えた状態で情報を模索されている状況もあった。

イ 実施内容及び手法

〈相談支援〉

- ・きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』において、きこえに関する総合的な相談窓口を設置し、保護者や関係機関からの相談に対応した。窓口には、コーディネーターの他に、ロールモデルとなる支援員（きこえない子どもの子育て経験者、きこえない当事者）、情報保障のための手話通訳者を配置した。
- ・新生児聴覚検査でリファーになった時点で、相談窓口である「きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』」の情報提供が実施されるよう県内すべての産科医療機関へ協力依頼を行い、希望に応じて早期から保護者のフォローができる体制を確保した。

〈保護者交流会の実施〉

きこえない・きこえにくい子どもの保護者交流会を2回実施した。

【開催日】

第1回：12月18日（日）、第2回：2月19日（日）

ウ 結果

〈相談の対応状況〉

相談件数 55件

（内訳）

○相談方法別

来所	電話	メール	訪問	その他
33件	15件	3件	3件	1件

○相談者別

本人・家族	33件
関係機関	22件

○主な相談内容（重複あり）

きこえに関する不安	5件
きこえない・きこえにくい子どもの子育てに関すること	21件
言語発達に関すること	15件
人工内耳に関すること	3件
その他	54件

- ・相談内容から、日頃のきこえない・きこえにくい子どもの子育てに関する悩みに関する相談が多く、ロールモデルとなる支援員が果たす役割が大きかった。
- ・きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』への相談を入りに、聾学校等の専門機関の支援に繋がったケースもあった。

〈保護者交流会〉

- ・交流会では、活発な情報交換がなされ、地域の学校の難聴学級に通う子どもの保護者と聾学校に通う保護者が繋がる場になった。保護者からは継続的な実施についての要望が上がっている。

(参加者数… 第1回：14名、第2回：5名)

④ 巡回支援の実施

ア 現状

鳥取県立鳥取聾学校本校、ひまわり分校の特別支援教育コーディネーターや教育相談担当者が、「きこえ」や「ことば」に対するサポートを行っている。

イ 実施内容及び手法

〈乳幼児の教育相談〉

幼稚園、保育園等の依頼に応じて園を訪問し、相談の内容により、定期的な指導・支援を実施。

〈小学校以上の教育相談〉

小中高・特別支援学校の依頼に応じて学校を訪問し、児童生徒の「きこえ」や「ことば」についての支援を実施。

〈その他〉

就学・進学にかかわる相談や学校見学や体験入学等にかかわる相談を実施。

ウ 結果

実施回数：64回（幼稚園、認定こども園、保育園：8回、小学校：35回、中学校：9回、高等学校：0回、その他：12回）

対象者：幼児児童生徒（幼稚園、認定こども園、保育園、小学校、中学校、高等学校、その他）

支援内容：発音等のアセスメント、教育相談（きこえ、就学、学習支援等）、定期教育相談、支援会議参加、受診同行、保護者との懇談等

⑤ 聴覚障害児の支援方法に係る研修会の実施

ア 現状

鳥取聾学校が、地域の園や学校等を対象とした研修会を実施している。

イ 研修内容及び手法

鳥取聾学校及びきこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』において研修会を実施した。研修会の実施については、双方に連携、協力しながら周知を図った。

ウ 結果（対象者、研修回数及び研修内容等）

	内容	備考
1	きこえない・きこえにくい子どもの支援セミナー 特別講演「きこえない・きこえにくい子どもの早期発見の大切さ」 講師 鳥取大学医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科 医師 (実施回数：1回) 対象者：きこえない・きこえにくい子どもの支援者、保護者等 参加者数：44名	主催：きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』
2	人権教育講演「聴覚障害について」 (実施回数：3回(3校)) 対象者：県内学校の児童、生徒 参加者数：延310名	特別支援学校のセンター的機能として鳥取聾学校で対応したもの
3	「聴覚障害教育の理解と支援」 (実施回数：1回) 対象者：初任者教員 参加者数：18名	
4	「通訳士養成講座」 (実施回数：1回) 対象者：手話通訳に関心のある方 参加者数：10名	
5	「補聴器と人工内耳について」 (実施回数：1回(1校)) 対象者：高校生 参加者数：11名	

(4) 考察（本事業の実施前後における改善内容）

- ・これまで、保健、医療、教育、福祉の全ての関係者が一同に会して、協議や情報交換を行う機会はなかったが、本事業を機に、各分野の関係者で構成した協議会を設置することができ、課題の共有を図ることができた。また、事業内容や難聴児支援に関して、各分野の視点からの意見を集めることができた。
- ・総合的な相談窓口として、きこえない・きこえにくい子どものサポートセンターを中核的機関として設置したことで、相談先に迷われる方の入口となることができた。きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』で対応した相談をみると、保護者にとっては、専門機関による専門的支援だけでなく、日頃の些細な悩みや不安な気持ちを気軽に相談できる寄り添い型の支援のニーズが高いことがわかった。ロールモデルとなる支援員を配置したことで、自身の経験に基づき、日頃の悩みに寄り添いながら、保護者の求めに応じた情報提供を実施することができ、保護者の不安の解消に繋がったのではないかと考える。今後、保護者のニーズに応じていくためにも、ロールモデルに出会える場所、相談できる場所があることは、不安を抱える保護者にとって見通しをもった支援に繋がり、効果的であるといえる。
- ・本事業で実施した、「きこえない・きこえにくい子どもの状況調査」から、年齢とともに

に難聴児の割合が高くなっていったことから、新生児聴覚検査の過程で診断される先天性の難聴だけでなく、成長の過程で顕在化してくる難聴や、何らかの原因による後天性の難聴についても、早期に把握して必要な支援に結び付ける必要があり、そのためには地域の中で関わる関係者で課題を共有し、共通の理解と意識をもっておくことの必要性が示唆された。また、同調査から、地域の学校に一側性難聴児や軽度難聴児が多く存在していることが明らかになった一方、支援機関とは繋がっていない子どもも多く、また在籍園や在籍校としてもほとんどが支援機関への相談の必要性を感じていないことが分かった。一見普通に生活していても、難聴児には聞こえにくさからくる生活上や学習上の困難さや悩みを抱えている可能性があり、あらゆる場面において適切な配慮や対応が求められることから、難聴への理解を深めるための啓発が重要な課題と考えられた。このことについて、協議会でも共有を図り、次年度の施策に繋げる検討を実施できた。